



令和5年度学校関係者評価（前期） 学校自己評価の結果について

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない)

【2】全体的な傾向

職員による自己評価、児童によるアンケートを通じて、2者ともに、多くの項目で【A】【B】評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされていました。

児童において、2項目「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」は肯定的評価が79%、「わたしは、本を読んでいる。」は肯定的評価が78%にとどまり『改善の余地がある』状態です。また、「わたしは、早寝早起きをしている。」「わたしは、家の人に学校のようすを話している。」の2項目で【C】【D】評価の割合が比較的高い状況でした。満足できる状態であると判断できますが、改善に向けた取組が必要な項目になります。昨年度前期と比較すると、【D】評価のあった項目は減少しており、よい傾向だと言えます。

職員においては、すべて項目で【A】【B】評価の合計が85%以上の割合になっています。その内その内【A】評価だけで80%以上のものは9項目にのぼっています。

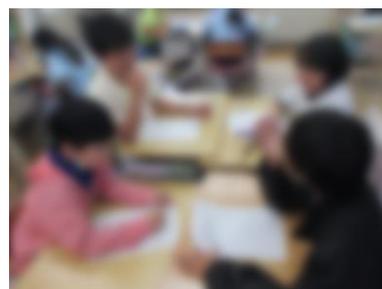
これらを総合的に判断すると、全体的に比較的良好な状況にあるということができると考えられます。

【3】個別の分析

(1)【確かな学力】にかかわって

学習指導は、学校の根幹をなすものです。教職員による自己評価においては、県でも進められている“山梨スタンダード”はもとより、学校全体で確認している授業の進め方をしっかりと実践していることが結果に表れています。“学習のめあて”を持たせることで見通しを持った学習活動を進め、授業後に振り返ることで学習内容を確認し定着させるという一連の学習の流れが、どの学年でも行われ、自ら学びに向かう姿勢を育てていると考えられます。また、児童の学習意欲や学力向上を図る一つ的手段とし、ICT機器の活用を積極的に取り入れています。職員が授業を大切に考え、児童に内容の理解が深まるように努めていることがわかります。また、個別最適な学び、協働的な学びを通して、主体的に学ぶ児童の育成を行いたいと考えています。今後も継続した取組を行っていきたいと思います。

児童の回答結果を見てみますと、「わたしは、学校の授業がわかる。」の結果から、日々の学習を理解している様子がわかります。これは「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を反映しているものだと考えられるでしょう。別の言い方をすれば、「聞くこと」が理解に繋がっていることを表しているとも言えるでしょう。しかし、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、肯定的評価は79%であり、2つの回答結果と準じてはいません。新型コロナウイルス感染防止のため、これまでできていた集団討議等の学習活動に制限がされていましたが、今年度は制限がなくなりつつあります。お互いの意見を交換し合ったり伝え合ったり、また教え合ったりする機会を多くしていますが、コロナ禍における「会話」という場面に接する機会が少なかったことも肯定率が低い要因だと考えられます。今後もICT機器の活用を使ったりグループ活動を行ったりを並行して行い「伝え合う」学習を充実させていきたいと思えます。【D】評価する児童がいないことから、個にあった丁寧な指導を行っていることがわかります。指導する職員の数に限られていますが、厳しい中でも、さらに有効な手立てを探り、確かな学力の定着を図っていききたいと思えます。



(2)【豊かな心】にかかわって

愛校心や自律心を育むために橿形地区小中学校で取り組んでいる「無言清掃」「靴そろえ」は、その肯定率から定着している様子が窺えます。児童も意識して取り組んだり、それが普通になってきたりしているのではないかと推察されます。昨年度、肯定率が僅かですが、下がった「靴そろえ」では、1学期の取り組みの結果【D】評価する児童がいない状況であり、成果にあらわれていと感じます。今後も、折に触れ、声掛けなどの必要性を感じます。

挨拶については、肯定率が99%ととても高い結果を得ています。日頃の様子をみると、高学年を中心にして挨拶の声が聞かれ、それが下級生に浸透しているからだと考えられます。児童会活動でも中心的な活動の1つになっており、児童中心の取組の成果が表れている結果です。学校を訪れる地域の方々からも「西小児童のあいさつはすばらしいね。」という声がきかれました。家庭での働きかけにも感謝しています。「いつでも」「どこでも」「だれにでも」そして「自分から」ができてつつある状況だと思えます。今後も学校のみならず、地域においても挨拶の輪を広げられるような取組を進めていきたいと思えます。

また、本校児童は、本に親しむことがとても好きです。しかし、本に親しむことと、本を読むことでは捉え方が違うのかもしれない。時間の合間を無駄にせず、本に触れあっている児童もいれば、朝読書の時間のみ児童もいます。図書委員会や司書が読書活動を充実しようと様々な工夫を凝らしているが、昨年度と比べると「わたしは、本を読んでいる。」の項目は、肯定率が大きく下がってしまいました。本に親しむことで、知識だけでなく心も豊かにしてくれると思えます。児童に興味を持てるよう、司書を中心に読書活動の充実に向けて全職員で取り組んでいきたいと思えます。

生徒指導においては、児童一人一人を理解することが欠かせません。職員は、個に寄り添いながらあるべき姿に導いていけるような指導を心がけているところです。時には、声を荒げて指導をすることもあります。感情に振り回されることなく冷静さを保ちながら指導するように、全職員と確認しながら指導できるように努めてまいります。「西小の児童は、規律がしっかり守られ、挨拶もよくできていて気持ちがいい。」と来校される方よりよく言われます。今後も個に対しての指導や全体に向けての指導が、全職員共通認識の上、同一歩調で行えるようまいります。

“いじめ”に関わっては、7件が報告されています。“いじめ”の定義からすると、受けた本人がその行為により「嫌な気持ちになった」「いじめられた」と感じると、それは“いじめ”として認知しなければならないことになっています。そこには、それに至った経緯については問われてはいません。そこから考えると、“いじめ”は誰でも被害者にも加害者にもなりうるということがわかります。74名の児童が西小学校に通っており、挙げられた数が多いか少ないかは個々の判断基準によりますが、重要なことは、そのまま放置されて人間関係が悪化していったり、重大な事案に発展したりしまわないかです。挙げられた件については、すべて担任が両者から十分な聞き取りを行って事実確認・状況把握をして適切な指導を行い、悪化することなく解決をされています。今後も児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていく所存です。



(3) 【健やかな身体】にかかわって



元気に学校生活を送るためには、“早寝”“早起き”“朝ごはん”が必要不可欠です。本校の児童をみますと、朝食は摂っていますが、十分な睡眠がとれていない児童がいることがわかります。高学年になるにつれてその傾向が高くなっています。家庭での生活のあり方も大きく影響していると考えられます。昨今、情報端末の普及で、それに触れている時間は多くなる傾向にあります。それは、始めたらかななかやめることができないのが特徴です。特に、オンラインゲームは、友達と離れていても一緒にできてしまうことがやめられない要因の一つです。学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、家庭への啓発が重要になってきます。今年度は、啓発の一つとして、6月の道徳公開の折に「今こそ考えよう！スマホやゲーム機の使い方」の学習を行いました。多くの保護者の方に参加していただき、保護者の方々の情報端末の使い方についての意識の高さがうかがえました。今年度の結果をみると、大きく改善されていることがわかります。ご家庭の協力があればこそだと感じます。「わたしは、早寝早起きをしている。」については、今後も注視していく課題となります。

児童の評価項目「わたしは、学校に行くとき朝ごはんを食べている。」は、高い肯定率となっています。職員の回答からも、児童に“食”の大切さを十分働きかけているということからも、児童も“食”について意識していると考えられます。

(4) 【学校・家庭・地域との連携】にかかわって

保護者との連携を保っていくには、学校からの情報発信はなくてはなりません。児童の学校での様子を知らせることや教師の思いを伝え共感してもらえることで協力が得られると考えております。そのために、各学年で学年だよりを発行して、児童の活動の様子等を知らせてもらっています。信頼される学校づくりのために、情報発信を欠かさず行っていくことの重要性を十分理解し、より充実した内容を周知していけるように取り組んでまいります。

また、これまで本校は、各学年において地域の方を講師として迎えたり、地域の施設に出向いたりして学習活動を進めてきています。今年度においても、その伝統は踏襲され、児童が地域に誇りを持つことに一役買っています。地域に根差した学校ですから、地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。毎年のことだからと前年をただ踏襲するのではなく、反省をもとに改善すべきところは改善を加え、より児童に見合った学習活動を進めるようにしたいと考えます。



(5) 【情報端末】にかかわって

“携帯電話”“スマートフォン”の所有率について、本校においても、高くなってきています。また、高学年だけでなく、低学年でも所有率が年々増えてきています。家庭の考えで持たせるか否かは分かれますが、肝心なことは、いかに安全に使用させることだということだと思います。所有している中で、使用上のルールが決められている割合は75%です。フィルタリング機能等措置をとっている家庭も増えてきています。しかし、児童任せにしてしまっている家庭が約2割以上存在していることを理解して、児童への指導や保護者への啓発をしていかなければなりません。GIGA スクール構想が進められている中、全児童が情報端末を安全に安心して扱えるように、情報モラルを守ることを徹底していきたいと考えています。